

男山のみなさんの願いを 日本共産党の代表へ

議員と記者の経験生かし

市政のゆがみにメス

みなさんと取り組んだ運動と論戦で、男山団地のエレベーター設置や介護施設YMBT開設が実現し、大変喜ばれています。

日本共産党の代表は、新聞記者15年、ジャーナリストの経験、議員として24年の経験生かし、八幡市のゆがみとムダ遣いにメスを入れ、暮らし応援の市政実現にがんばります。ごいっしょに誰もが安心して住み続けられる男山をつくりましょう。

お約束

- * 高校卒業まで医療費を無料に
- * 学校給食費の無償化
- * 国民健康保険料の引き下げ
- * 医療と介護の負担軽減
- * 「あんしんサポートハウス」などケアハウス増設
- * 水道料金の値上げストップ
- * 身近な買い物環境の整備
- * 男山団地のエレベーター設置

←ウラ面に

【解説】住まいを脅かす「維新」の「UR民営化」論

ご存知
ですか

UR民営化 維新の主張

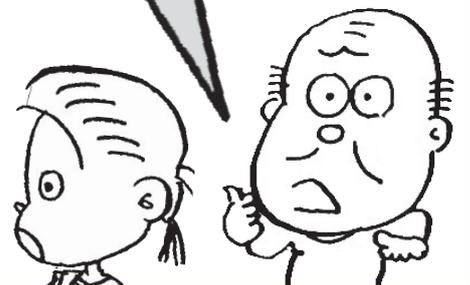
参議院の予算委員会で3月末、維新の会の東徹議員（大阪選挙区）が、UR都市再生機構を民営化して、その資産1・5兆円を防衛費増額に使えと主張しました。

維新の会は、2017年UR完全民営化法案を提出しており、維新の会としてUR民営化は一貫した主張のようです。

この立場は、男山団地などUR住宅に住む人たちの住まいを脅かし、UR団地に住み続けることができなくなってしまうです。

URを民営化して
資産1.5兆円を
防衛費増額に使って？

住まいが
危ない！



住み続けられる 男山のまちづくりを

UR都市再生機構が2008年に男山団地の縮小・再編計画を出した時、八幡市議会では、日本共産党をはじめ全会一致で意見書を採択。URに、住民合意を得ること、住民の居住の安定の確保、市のまちづくり施策との整合を図ることを要請しました。

これがきっかけとなって、「住み続けられる男山のまちづくり」をテーマに、八幡市と京都府、関西大学、URが協議する場が設けられました。そして、地域医療福祉拠点計画に基づいて、男山団地にエレベーター17基が設置され、特別養護老人ホーム、ケアハウス「あんしんサポートハウス」の複合施設ができました。

エレベーター設置では、政府の補助金を活用し、介護施設の「あんしんサポー

トハウス」の建設時には、URの協力で土地を確保でき、京都府の支援もうけました。

維新の会が主張するようにURを民営化すれば、こうした国と自治体の支援やURの協力を得ることが難しくなり、「住み続けられる男山のまちづくり」の根拠が崩れてしまいます。家賃の高騰などの懸念もあります。



日本共産党は、エレベーター設置や医療・介護の施設の充実を進め、安心して住み続けられるまちづくりを進めます。

日本共産党